

10. 地域における実践的マーケティング活動

松商短期大学部商学科 金子 能呼

(1)活動の計画

担当するゼミナールの研究内容はマーケティングであり、学生が知識を得るだけではなく、その知識を活用することに主眼を置いている。そのため、地域での実践的な活動やアクティブラーニングを導入し、学生には主体的かつ能動的に学習するよう促している。

卒業研究のテーマであり、主力の活動として位置づけているのが、おにぎりの商品開発である。地元JAから依頼があり、JAのブランド米を使用したおにぎりの商品開発を12年前より続けている。これまでの成果を踏まえ、活動内容をさらに充実化することができるよう、オリジナリティ溢れるレシピづくりに挑戦するつもりである。それにより、学生が得られる教育成果を大きくするとともに、地域へのフィードバックもより積極的に行いたいと考える。

また、2014年からバレンタインスイーツの企画・販売のプロジェクトにも関わることとなり、継続的な取組となっている。学生は地域のパティシエたちと共同でスイーツを企画し、実際にお客様とコミュニケーションをとりながら販売する。売り上げに直結する活動であり、良い意味で緊張感を伴う実践的な取組である。

以上の活動においては、毎年同じことを繰り返すのではなく、進化を目標として、新たな挑戦や試みを積み重ねるよう努めている。これらの取組により、学生は自ら考え、調べ、企画を実現させるというプロセスを体験する。ビジネスとして成功させることができるよう、緊張感と責任感を持って活動するなかで、マーケティングの本質を理解し、マーケティングを実践する力を身につけることができる。また、自分の役割を意識し、チームワークを強化していくことが重要となるため、コミュニケーションの大切さを実感する。チームで実践的なマーケティング活動に取組み、常にPDCAサイクルを繰り返すことにより、短期大学部で取り組むコンピテンス育成の成果も得られることが期待できる。

(2)活動内容と成果

卒業研究のテーマであり、主力の活動として位置づけているおにぎりの商品開発については、昨年度に引継ぎを行うことはできたものの、今年度は学内で試作や試食をすることが難しい状況であった。そこで、前期中は自宅で試作を繰り返し、オンラインで行ったゼミナールにおいて、自分のレシピを発表し合った。



発表されたレシピをほかの学生が試作し、改良につながるように感想やアドバイスを伝え合うということを繰り返した。今年度も昨年度に引き続きテーマを「インスタ映え」としたため、おいしいだけではなく、見栄えも考慮したレシピづくりに取り組んだ。さらには大学院生とのコラボ企画である「管理栄養士監修」のおにぎりづくりにも挑戦し、栄養面での勉強にもつながった。おいしさも見栄え、そし

で栄養価と、課題が多くなるほどにレシピづくりが難しくなったが、それだけにアイデアを形にするプロセスにおいて考え抜く力、前に進む力が求められ、鍛えられたように思う。

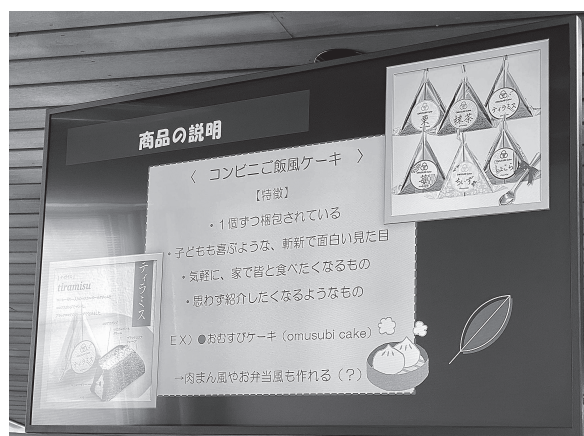
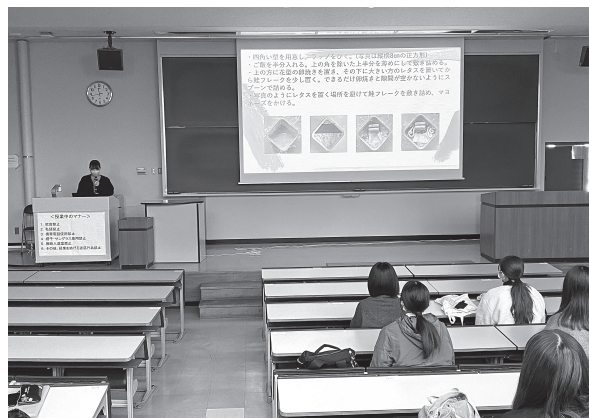


値段&Kcal			
材料	分量(g)	Kcal	値段(円)
ご飯	103g	173Kcal	32.9円
アボカド	25g	47Kcal	22.5円
カニカマ	15g	14Kcal	19円
白ごま	2g	12Kcal	3.4円
マヨネーズ	3g	21Kcal	
醤油	2g	1Kcal	
海苔	1枚	1Kcal	
合計	150g	268Kcal	



後期からは対面での授業が可能になったため、学生はパワーポイントを使用して自分のレシピをプレゼンテーションし、その後チームごとに議論の場を設け、レシピの改良を図った。今年度は試作ができなかったものの、毎回のようにはプレゼンテーションを行ったため、わかりやすさを重視したまとめかたや見せ方の工夫が見られ、表現力が強化されたことが最大の成果であった。おにぎりづくりについても、自宅で試作に取り組む時間が確保されたこともあり、非常にクオリティの高いレシピもいくつか完成させることができた。





バレンタインスイーツの企画についてもプレゼンテーションを行い、コンペの段階までは進めることができたが、その後はコロナの警戒レベルが上がってしまい、イベント自体が延期となってしまった。とはいえ、バレンタインスイーツの企画は1年生も挑戦することができ、多彩な企画が提案されていた。

実践的な活動においては、緊張感と責任感を持って活動するなかで、マーケティングの本質を理解し、マーケティングを実践する力を身につけることができる。また、今年度はとくに「伝える力」が求められたため、活動においてもそこに注力することができた。また、対面ではグループディスカッションを必ず行うようにして、チームで働く力を意識的に強化しようと試みた。学生自身、コロナ禍だからこそコミュニケーションの大切さを実感することができたのではないかと考える。



(3) 成果の公表(活動発表・論文執筆等)

研究成果は学生が卒業論文にまとめた。おにぎりのレシピは、おにぎりレシピ集としてまとめ、随時配布していく予定である。